

アストロス、またまたオリンピック年で優勝！

2012年、ロンドンオリンピック年に優勝、2016年、リオのオリンピック年で優勝、次も又2020年、東京オリンピック年に優勝、と縁起を担いで臨んでいましたが、何とコロナ禍で2020年、2021年と大会自体が中止になってこれまでかと思っていたのですが、北京オリンピックの年に優勝出来ました。これで優勝6回、初回から参加している自分としては感無量です。

今年はトーナメント方式ということで昔に戻ったわけですが、組み合わせ抽選でいつもながら籤運の弱い自分はやっぱ強豪チームの集まる側に入り、今年もきつい試合を強いられるなあと思っていました。

初戦は、下から勝ち上がってきたロードランナーズ。過去に初戦負けを2度ほど喫しているFC JAPANが上がって来るだろうと予測していたのですが、何とそのFC JAPANに圧勝したロードランナーズが相手、嫌な予感がしました。それでも初回からこつこつと点を重ね、何とか逃げ切りました。

次は予想通りの住友チーム、過去何度も対戦してきて毎回ドラマを生んできた相手です。堅い守りで6回まで零点到抑えていましたが、やはり最終回に追い付かれました。2対2の同点。時間もあつたので延長戦に突入、それでも両チーム得点することが出来ず、8回終了でジャンケン。過去にジャンケンで負け準決勝に進めなかった記憶が蘇り、今回もか、と不安がよぎりましたが、3人ずつのジャンケン対決、若い3人が積極的に挑戦、結局3人まで行かず最初の二人が勝ち、何とかこの試合をものに出来ました。あとの打ち上げでやっぱり住友チームとの一戦が今回も一番きつかったというのが皆の意見でした。

いよいよ準決勝、相手は予想通りの居酒屋とチーム、それまでにキャプテンの上田は肉離れで離脱、自分(監督)もこの試合で早々と追うようにして肉離れで離脱。女性も入れて14人しかいないチームから二人抜け、12人での対戦、果たしてどうなるかなと不安気味も、ピッチャー王子の好投と完璧な守備陣に守られて、なんと4対0の完封勝ちを収めることが出来ました。

そして迎えた決勝。大方の予想を裏切って対戦相手はAstrosとの合併も一度は考えたRookies。それまでの厳しい戦いに比べて和気あいあいと出来、比較的にリラックスした試合運び。それまで緊張のせいにか長打がなかなか出ず、苦しんでいた近藤の外野越えのホームラン、これで決まりでしたね。

選手紹介



一番: セカンド 上田、キャプテン

流し打ちが得意も肉離れで第1試合途中で離脱。早く治して来年の大活躍を祈りましょう。

二番: サード 實

過去のアストロズのサードで守備力No.1じゃないかな?とにかくどんな球でもキャッチして確実にアウトを取って来る。残念ながら来年の大会時には既に帰国かな?

三番: センター 石崎俊樹

チーム内で一番若いUHの現役学生。今回は気負い過ぎてなかなか打てず、それでも数少ないヒットを足で稼ぎ得点に結び付けてくれました。

四番: ショート 近藤

期待の新人。深く守るも強肩を活かしてアウトを取って来る。今回はもう一つだったが来年は長打の連発を期待出来るでしょう。最後に一発大谷級の飛距離のホームランを打ってくれました。

五番: レフト 沢野シェーン

ジュニア時代から佐藤流と一緒に出ていたまだ若い古株の一人。打撃は今年はスランプ状態でしたが、ファインプレーで何度も危機を



救ってくれました。

六番: ライト 西田

どこでも守れる万能プレーヤー。打率も常に1、2番。近々事務所がNew Jerseyに移るため来年の参加は微妙。でも出張してくれるでしょう。

七番: ファースト 王子

過去、自分と交代でピッチャーをやったり、ファーストをやったり。でも今回は2試合目以降は全部投げてもらいました。全ての試合でナイスピッチでした。本来は4番バッターの才能の持ち主ですが、やはり自分の次に年を取っているの今は他の若い人たちに主力になってもらっています。

八番: DH 清家

良く打ち良く守るオールマイティーのプレーヤー。今回は守るところを与えられずDHかファーストでもったいない起用しか出来ませんでした。来年は、實が帰国後サードの予定。

九番: ピッチャー 佐藤

王子と交代で2試合ずつ投げる予定でしたが、ロードランナーズ戦で張り切り過ぎの三塁打を含む3打数3安打、走り過ぎて、次戦で肉離れで離脱。それでも初戦の勝利に貢献出来て大満足でした。

十番: キャッチャー 近藤祐理子

毎週の練習や練習試合で確実に実力を付けてきて、外野までヒットを飛ばしていました。相手の飛びついて取るファインプレーでアウトになってしまい、もう一本ヒットが取れたのに、と悔しがっていました。来年は更に成長して活躍してくれることでしょう。

十一番: ローバー 實加那子

やはり大成長してくれて、もっと練習を積めば更に成長してくれるでしょう。しかしながら来年は帰国かな?本人はもっとヒューストンにいて来年以降も一緒にソフトをしたそうでしたが。

牛嶋:

やはり守りも打撃も出来る万能プレーヤー。途中からセカンドをずっと守ってもらいましたがサードもショートも守れるでしょう。しかしながら2度目のヒューストンの駐在で来たばかり、重ねる年齢との戦いは自分と同じ。今年が出来ませんでしたが丸紅にチームが出来ると抜かれてしまうかも。

沖:

主にライトを守ってもらいました。良く打ってくれました。ファインプレーのナイスキャッチもありました。来年も残れるというので更なる活躍を期待致しましょう。

酒井:

数少ない打って守れるシニアメンバーの一人。決勝は、とにかくもう一人故障者が出るとアウトなのでベンチで我慢してもらいましたが来年も有力シニアです。

来年以降も人集めで苦勞しなくてはならないチームのようですが、次のオリンピックは、2024年のパリ大会ですね。今からその年の優勝を目指して練習を積んで行きます。でも2023年も優勝してしまつたらごめんなさいね。

(監督 佐藤文昭)